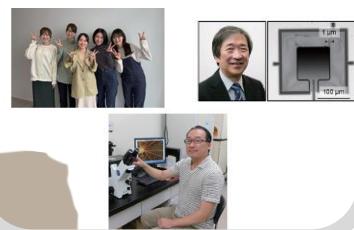


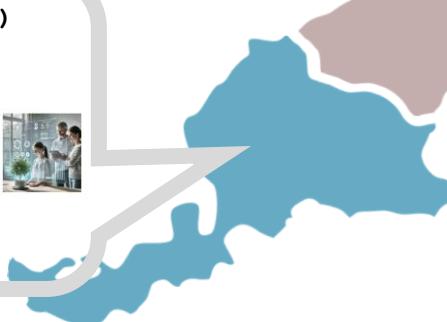
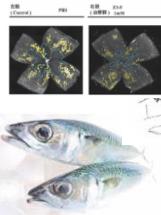
97 (43, 54)



26 (14, 12)



32 (15, 17)



総数(第1回ギャップファンド、第2回ギャップファンド)

2024年度ステップ1

サバ完全養殖を実用化し新たな養殖魚市場を創造する

さばイバル・プロジェクト
 SABAival PROJECT

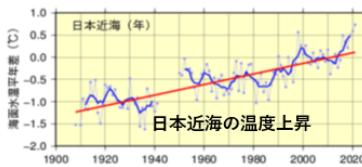
 福井県立大学
 Fukui Prefectural University

Problem

日本のサバ養殖の絶滅の危機

日本の養殖サバ市場概況
2024年現在

【要因1】海水温化によるサバ大量死



【要因2】サバ大不漁による種苗の不足

小浜の実績

2016年～

福井県小浜市「鰯、復活」プロジェクト

福井県立大学海洋生物資源学部
ふくい水産振興センター（福井県水産試験場）
田島水産株式会社

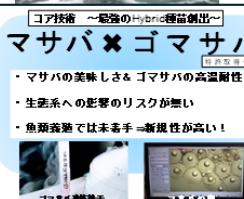
産・学・官連携による完全養殖の研究実験

2019年～2023年：
畜養で「小浜よっぽらしいサバ」事業展開

2020年：約1万匹の人工種苗の生産成功

2023年：完全養殖サバ試験販売を達成！

スタートアップ設立による挑戦

福井県立大学
海洋生物資源学部
田原大輔教授

マサバ × ゴマサバ

- マサバの美味しさ & ゴマサバの高耐性
- 生態系への影響のリスクがない
- 魚類養殖では未名手 = 新規性が高い！



事業目標

国内サバ人口種苗市場⇒120億円

さらに、
世界の食用サバ市場⇒約2000億円
を目指す。

2024年度ステップ1

能登半島地震をきっかけに走り出した プロジェクト

最大積載量50kg・飛行距離50km超VTOL型有翼電動ドローン事業

 KIT
 金沢工業大学

Problem

顧客：山間部や過疎地等の厳しい環境下での資材・物資輸送者

- 送電線工事・保守点検：
電力会社、送配電会社、保守点検会社、等
- 山小屋への物資運搬：
山小屋運営会社 等
- 災害・人道支援・防災・防衛：
官公庁 等

顧客の課題：人手不足・コスト高・安全面リスク

- 輸送作業員のなりて不足（人口減少、働き方の変化、内体労働への敬遠）
- ヘリコプター輸送のコスト高（燃料費等の高騰、さらに発着現場までは人力運搬）
- 積荷用地の確保難（敷設コスト高のため近くにない、また地権者と調整でコスト増）
- 輸送手段を有する者への依存度高（運搬できる物量や、納期など含め対等に交渉しづらい）
- 死亡災害を含む重大なリスク有（滑落リスクや作業時の熱中症の危険）



ステップ1の成果



2025年3月：1号機(50Kg浮上)

金沢工業大学工学部
教授 赤坂剛史

スタートアップ設立による挑戦

・VTOL型有翼電動ドローン「ドローン 50/50」

◎ 最大積載量 50kg・飛行距離 50km超

- 滑走路を無充電で何處も往復

- 長距離飛行・重貨物ドローンは希少

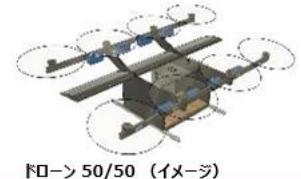
○ 垂直離着陸

- 不整地や駐車場の広さでOK

○ 電動

- 手綱・取り扱いが容易

・ 世界のドローン市場へ



ドローン 50/50 (イメージ)

